



# 陶の空間 草木の空間

## 川崎毅と 関島寿子展



菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

※プレスレビューのご案内は最終ページをご覧ください。

展覧会に関するお問い合わせ 担当: 島崎・花里 (☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132)

日頃より当館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。次回の展覧会「陶の空間・草木の空間 川崎毅と関島寿子」展のご案内をさせていただきます。

### 陶芸家・川崎毅（1942年-）について—

宮崎県に生まれ、東京芸術大学で陶芸を専攻し、加藤土師萌、藤本能道、田村耕一のもとで学びました。個展を中心に作家活動を行い、制作は2種類の仕事からなり、一つは磁器の食器、そしてもう一つが本展で紹介する「街」や「匣」といった陶のオブジェです。

「街」や「匣」は、家のかたちを組み合わせて、「街並みのある風景」を表す作品です。構成のアイデア次第で、都会の一隅であったり、城塞都市を思い起こさせたり、発掘された遺跡を連想させたりと、趣きが異なるのが魅力です。白い化粧土の質感や、暗示的に示された窓、階段、路地は、面や線、光線の具合など造形上の関係性から方向付けられたものですが、鑑賞を作品空間のなかへと誘います。

### カゴの作家・関島寿子（1943年-）について—

津田塾大学英文学科を卒業後、1975年から79年にかけてニューヨークに在住し、アメリカの現代工芸の潮流に刺激を受け、以前より制作していたかごの表現を追求し、独自の表現方法、造形観を確立させました。

作家が扱う植物の種類はクルミやフジ、ヤナギなどと幅広く、それぞれの野性味を編組の技術によって際立たせ、造形化しています。網目の隙間を通して内部空間を可視化しているのも特徴です。素材や空間性を突き詰め、カゴの概念を抽象化させたユニークな造形は、国内外で高く評価されています。

### 展覧会の見どころ—

川崎氏と関島氏はともに「街」や「カゴ」という身近なテーマを出発点としながら、素材や手法、光線を抽象の造形として高めています。二人の作家にとって素材や手法の制約は、むしろかたちとの関係性の新たな発見を秘めており、その面白みを作品に引き出しています。一つ一つの作品が固有の空間を持ち、その新鮮な空気感、佇まいをご覧いただきたく思います。

## ■■展覧会概要■■

- 展覧会名 「陶の空間・草木の空間 川崎毅と関島寿子」展
- 会期 2014年7月12日(土)～9月28日(日)
- 観覧料 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし7/21、9/15は開館）、月曜祝日の翌火曜日（7/22、9/16）
- 展示内容 川崎毅の「街」「匣」およそ25点、関島寿子のカゴおよそ25点

## ■主な作品とその魅力

川崎毅 作品



作品のつくり出す空間に視線を沈ませ、奥へと続く道をつたって路地を彷徨するうちに、この街の物語を見つけられそうな気がする。なにかの気配や余韻とともに鑑賞したくなるのが作家の作品の特徴である。

この街をつくるにあたっては、箱状の空間を一枚のスケッチブックのようにみなしたという。額縁のような四方の枠が光線をさえぎり、街に柔らかな陰影を落とす。

### 1. 「街（垂直のポール）」2005年 46.0×24.0×36.5



地中から掘り出されつつある街の一部か、岩山を削り込んでつくられた集落か、大通りは向こう側に貫通し、建物の小さな扉や窓の暗闇は内部の様子を暗示する。

1. の作品と似たような発想でつくられ、立方体の粘土の塊を一枚のスケッチブックのようにみなしたというが、まったく異なる魅力を持つ。一棟ずつ壁の角度を変え、建物どうしに関係性をもたせ、鑑賞を引き寄せている。

### 2. 「街（トンネル）」2005年 17.0×17.0×17.0



積み上げて柱状にしたり、金属を組み合わせたりと、作家の自由な発想がよく分かる作品。垂直性が強調され、鷺巣村のような城塞都市を連想させるが、物語性を喚起するというより、造形的な面白みが特徴である。

### 3. 「街（別の建物）」2004年 57.0×28.0×29.0



上下方向に積み上げたものを横に倒したり、斜めの要素を付けたしたりと、方向性をあいまいにしたあとで街を再構成した作品。実験的な遊び心に富む。鑑賞を誘導するのは、街の中心部へと続く坂道、窓のある建物、避雷針のようなポール。目の探検からこの街の物語を自由に想像することができる。

### 4. 「街（家の上の家）」2012年 35.0×37.0×29.0

関島寿子 作品



スイカズラの蔓をヤナギの皮で巻き止めながら球状に形作る。スイカズラの線の動きとヤナギの質感の対比が面白い。また、ヤナギの皮も外側と内側では色や質感が違い、植物素材の多彩な表情を楽しめる。

5. 「束の間VI」 2008年 16.5×24.0×22.0



クルミの木の皮を折りたたみ、絡め、交差させ、樹皮の質感で魅せる作品。樹皮の折り重なる様子が美しい。「編む」という言葉に含まれる行為の多様性を感じさせる。

6. 「固形II」 2010年 17.0×39.0×17.0



螺旋状に巻かれた一本の縄が徐々にほどけていくように見える。しかし、縄の中に別の縄が編み込まれていることから、この作品は一本の縄で構成されたのではなく、クルミの細い樹皮を立体に編み上げていったものであることがわかる。「編む」という行為のダイナミズムを感じさせる作品である。

7. 「なわの記録III」 2007年 28.0×39.0×18.0



ヤマボウシとエノキの枝を湾曲させ、部分的に固定している。枝の外側に点々と削り模様があり、外と内の空間を意識させる。しなった枝の線が美しく、躍動感がある。

8. 「城を印すI」 2013年 23.0×55.0×23.0

## ■作家略歴

### 川崎毅（1942年～）

- 1942 宮崎県に生まれる
- 1968 東京芸術大学大学院陶芸専攻修了
- 1969 多摩市に築窯  
二人展「川崎毅・小池頌子」（京王百貨店/東京）以後グループ展多数
- 1978 ギャラリー・ユマニテ（名古屋）にて初個展  
以後、イマキ画廊（福山）、現代陶芸寛土里（東京）、三春堂ギャラリー（東京）、  
ギャラリー田中（東京）、GALLERY TAO（東京）、あい工芸（大分）、ギャルリプチボワ  
（大阪）、コンテンポラリーアート NIKI（東京）、器・ギャラリーたち花（東京）、SILVER SHELL  
（東京）アトリエ倫加（高知）などで定期的に個展多数
- 1983 「Japanese Ceramics Today」（スミソニアン博物館／ワシントン DC、ヴィクトリア&アル  
バート美術館／ロンドン）
- 1988 「惑星直列」展＜小川待子・川崎毅・小池頌子・佐藤和彦・武田武人・塚本誠二郎＞  
（ギャラリー小柳/東京）
- 1990 サントリー大賞展（サントリー美術館）
- 1998 第3回オーストラリア国際クラフト・トリエンナーレ（西オーストラリア州立美術館）出品、  
「陶芸の現在的造形」（リアス・アーク美術館/宮城県）出品
- 2001 「陶」食のうつわ展（日本橋三越）
- 2003 「Japanese Ceramics Today Part1、Part2」（菊池寛実記念 智美術館）
- 2010 個展（現代陶芸寛土里）
- 2011 「福島サト子寄贈 川崎毅展」（大阪市立東洋陶磁美術館）
- 2012 「川崎毅・小池頌子展」を和光（銀座）にて開催
- 2014 個展（現代陶芸寛土里）

### 関島寿子（1944年～）

- 1966 津田塾大学英文科卒業 1975年 ニューヨークに住み(79年まで)、創作を始める。
  - 1976 サンドラ・ニューマンにアメリカン・ネイティブのバスケットリーの技法を学ぶ
  - 1978 ジョン・マックウィーンに現代的アプローチを学ぶ
  - 1984 個展「Nature Transformed」（ウェイヴヒル・ハウスギャラリー/N.Y）  
以後、マスタスタジオ（東京）、三春堂（東京）、マロニエ（京都）、ギャラリー千疋屋  
（東京）、ギャラリーいそがや（東京）、寛土里（東京）、ブラウングロッタギャラリー（アメリ  
リカ/コネチカット州）など個展多数
  - 1986 『BASKETRY』（講談社インターナショナル）刊行
  - 1988 『バスケットリーの定式』（住まいの図書館出版局）刊行
  - 1991 「素材の作るかたち」NHK制作放送 VTR,工房探訪シリーズ
  - 1994 「素材の領分」展（東京国立近代美術館）出品、作品収蔵
  - 1995 「日本のスタジオ・クラフト」展（ヴィクトリア&アルバート美術館）出品 作品収蔵
  - 1995 SOFA(Sculpture, Object of Art), Chicago Navy Pier.
  - 1998 「幻想植物園」展（平塚美術館）出品
  - 1999 「Nature As Designer」展（西オーストラリア美術館）出品 作品収蔵  
「世界を編む」展（横浜美術館）出品
  - 2002 個展「エレガント空間」（東京国際フォーラム）
  - 2005 「愛知万博記念展 アジアの潜在力」（愛知県美術館）出品
  - 2011 「Fiber Futures: Japan's Textile Pioneers」（多摩美術大学美術館、  
ニューヨーク Japan Society 他欧州各地に巡回中）出品
  - 2012 「糸の先へ」（福岡県立美術館）出品  
「現代の座標:現代工芸の11の思考」（東京国立近代美術館）出品
  - 2014 Collect2014（Saatchi Gallery/ロンドン）出品
- 現在、多摩美術大学美術学部 生産デザイン学科テキスタイルデザイン 客員教授、  
女子美術大学立体アート科 非常勤講師、金沢美術工芸大学 非常勤講師

## ■ 展覧会関連行事（予定）

### ● アーティスト・トーク 当館 B1 階展示室にて

作家によるギャラリートーク いずれも土曜日午後 3 時より（観覧料のみ、聴講無料）

● 川崎毅氏 7 月 26 日

● 関島寿子氏 8 月 30 日

### ● サマー・セミナー「編む」を考える

8 月 2 日（土）午前 11 時～午後 4 時半 当館 B 1 階展示室にて

講師：関島寿子氏

定員：10 名（事前お申込み制）

対象：中学生以上

参加費：5,000 円+入館料（昼食は含みません）

持ち物：自分で編めると思う材料、編んでみたい材料

（植物、紐、梱包用テープ、紙などご自由にお持ちください）

### ● 夏休み こども鑑賞ツアー

8 月 9 日（土）午後 2 時より（観覧料のみ、聴講無料）

### ● ナイト・ミュージアム 当館 B 1 階展示室にて

朗読劇 チューホフ作 沼野充義訳「かわいい」

閉館後の美術館展示室で、軽井沢高原文庫、軽井沢演劇部による朗読会を開催いたします。

名作「かわいい女」を、「ユートピア文学論」（読売文学賞受賞）などでも話題の、沼野充義の新訳でお楽しみ頂きます。朗読後は、作品に関するトークも行います。

出演：軽井沢演劇部

< 矢代朝子・山本芳樹（Studio Life）・岩崎大（Studio Life）・坂本岳大 >

8 月 23 日（土）閉館後（閉館時間午後 6 時） 事前お申込み制（定員＝60 名）

参加費＝4,000 円（観覧料含む。当日観覧券をお持ちの場合は 3,000 円）

### ● 学芸員による ギャラリートーク （観覧料のみ、聴講無料）

7 月 19 日、8 月 16 日、9 月 6 日、20 日 いずれも土曜日午後 2 時より

### ● 西洋館見学会 （予約制・定員 20 名様）

7 月 26 日、9 月 13 日 いずれも土曜日午前 11 時より

当館敷地内にある西洋館（登録有形文化財）は、大正時代に建てられた後、修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され、今日まで使用されている希少な建物です。通常、非公開の内部を上記の日程で限定公開いたします。※西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含め、お一人様 8,000 円です。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当: 島崎、花里)**

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

## 掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

### ● 貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

### ● 媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

### ● 画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年/撮影者 (記載がある場合) を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	1 川崎毅「街 (垂直のボール)」2005年 46.0×24.0×36.5
<input type="checkbox"/>	2 川崎毅「街 (トンネル)」2005年 17.0×17.0×17.0
<input type="checkbox"/>	3 川崎毅「街 (別の建物)」2004年 57.0×28.0×29.0
<input type="checkbox"/>	4 川崎毅「街 (家の上の家)」2012年 35.0×37.0×29.0
<input type="checkbox"/>	5 関島寿子「束の間VI」2008年 16.5×24.0×22.0
<input type="checkbox"/>	6 関島寿子「固形II」2010年 17.0×39.0×17.0
<input type="checkbox"/>	7 関島寿子「なわの記録III」2007年 28.0×39.0×18.0
<input type="checkbox"/>	8 関島寿子「城を印すI」2013年 23.0×55.0×23.0

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

## プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。  
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2014年7月11日(金) 14:00～

14:00～14:45 展示室にて、作品解説などギャラリートークを行います。展示会場内ご撮影いただけます。

\*川崎毅氏、関島寿子氏にお話しいただく予定です。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分
- ・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	